自由民主党 港区議会議員

池田こうじ

区政報告
第14号
2015年11月5日発行
www.ikeda55.com
池田こうじ 検索

福祉ナンバーワン都心「港区」へ！

～都心こそ子育て、都心こそ豊かな老後を～

平成27年4月に執り行われた港区議会議員選挙において、3期連続当選を果たすことができました。当選以来、議会活動・陳情要望対応はもちろん、公式行事や地域・町会でのお祭り・イベントなどの参加・運営、地域での文化・スポーツ活動や、消防団・法人会など幅広く奉仕活動を行ってきました。加えて、ライフワークである子供たち・お年寄りのための福祉活動、大学では福祉に関する講義やシンポジウム開催などフル回転で活動しています。
「手を差し伸べるべきところに手が差し伸べられている」という福祉の精神に基づいた政治、その初心を肝に銘じ、これからも皆様への感謝の気持ちを忘れず、港区政進展に尽力して参ります。

港区議会議員 池田こうじ

武井区長の激励と共に

池田こうじ活動ファイル ～議会で、まちで、福祉現場で～

母校、慶應義塾で健康シンポジウム、三田会会長として主催者挨拶

あきる野市区民の森管外視察

小学校で花植ボランティア

運営する児童養護施設でボランティアの受け入れ

夏休みはラジオ体操のお兄さん、最終日は恒例スイカ割です

港区議会野球部はブロック優勝９連覇

港区長寿を祝う会に出席

夕凪橋開通式典に出席

トライアスロン全日本選手権@お台場、港区連合顧問として

交通環境等対策特別委員長を拝命

30年ぶりの町会神輿を復活させて２年目、感涙です

羽田空港増便について国交省と勉強会を議会で開催

運営する特別養護老人ホームの敬老式典であいさつ

終戦記念日の日、平和を考える集いに出席

特別養護老人ホーム白金の森を視察

毎年、多くのまちの祭礼に参加します

六本木３町会合同バーベーキュー

みなとサウンドクルージングに地域仲間のバンドで参加

予算委員会での提言で行政書士区民相談が開始

みなとキャンプで子供たちと山登り

みなとキャンプのキャンプファイヤーで火の神

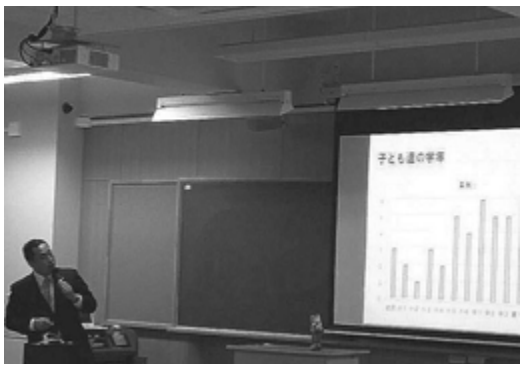
芝浦アイランドこども園を視察

六本木客引き防止キャンペーンに参加

東京都障害者スポーツ大会の支援は４年目に

港区スポーツ・体育祭に出席

チャレンジコミュニティ大学入学式に出席



大学の看護学部で児童虐待について講義

六本木朝の清掃ボランティアに参加

消防団員として12年目

福祉こそ政治、政治こそ福祉　池田こうじ　プロフィール

福祉の歩み

20代から児童養護と高齢者介護の福祉現場に従事、特別養護老人ホーム施設長、ケアマネージャーなどを務め、港区あんしん介護センターを設立・運営。西麻布の特別養護老人ホーム ベルの準備室担当役員として監事に就任、他、港区介護事業者協議会会長なども歴任。現在も社会福祉法人理事長として、虐待児など家庭に恵まれない子供たちを預かる児童養護施設、特別養護老人ホームなどの福祉現場にて陣頭指揮にあたる。

政治の歩み

港区議会議員３期目。現在、交通環境等対策特別委員会委員長、保健福祉常任委員、港区環境審議会委員、自民党港区総支部総務会長など。東京都後期高齢者広域医療連合議会議長、防災エレベーター特別委員会委員長なども歴任。

地域奉仕活動

町会副会長、消防団部長、青少年対策地区委員会理事、法人会理事、ライオンズクラブ（東京地区）社会福祉障害者支援委員、少年野球団顧問、少年サッカースタッフなど

学歴など

港区立青南小、港区立三河台中（現六本木中）、都立小山台高校（菊桜会監事）、同志社大学文学部哲学科、卒業。慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科修士課程修了（健マネ三田会会長）。自民党政経塾卒塾（第１期）。
昭和39年生まれ、家族、妻・長女・長男。
趣味、バンド、登山、野球、サッカー。

幅広い分野で区に提言と要望！～自民党議員団を代表して総括質疑～

テーマ１
黄金期の武井区政を継続するためには絶え間ない努力が必要だ

３期目の武井区政は、財政力指数、健全化判断比率も他の自治体の追随を許さないほど良好だ。人口も平成８年の 15 万人から 24 万人を超えるまで回復、まちづくり、教育、福祉等きめ細やかな施策を展開し、今、武井区政は黄金期と言える。この黄金期がほころびることなくしっかりと継続するよう、区政の最も大きなテーマである指定管理者制度と総合支所制度について伺い、東京五輪を控えた新しいテーマ、スポーツ行政についても伺う。

◎定着してきた指定管理者制度をもっと区政進展へ活かすべきだ

・区の施設を民間に委託するという本制度導入から10年近くが経ち、約３分の１の施設が民間事業者によって運営されている。現場感覚を持った職員が減っている中、職員の指導管理能力の向上が必須だと考えるが、そのスキルアップをどう図っていくのか

・どのように公平、透明化をはかり、事業者を選定してくのか、また、指定管理者契約の仕様書について民間の自由な発想を軽減しない柔軟なスキーム作りが必要かと思うがどう考えるか

◎円熟期を迎える総合支所制度の成果を政策立案に活かすべきだ

・地域での多くの声を政策立案に活かす仕組み作り、先進的取り組みを総合支所発案で進める仕組み作りをしなくてはならないと思うがどのように考えるか

◎多様なニーズに応える「スポーツ課」を区役所に設置するべきだ

・介護予防、地域振興、成人病予防、産業振興、様々なものに寄与していくスポーツ行政に関しては、23 区では港区を含む７区のみが教育委員会所管だ。「体育」は教育委員会に残し、「スポーツ」は教育委員会ではなく区長をトップとする区長部局へ移管し、庁内にスポーツ課を設置すべきだと思うがどうか

◎お台場での東京五輪開催種目「トライアスロン」の振興を加速すべきだ

・港区内で開催予定の東京オリンピック種目であるトライアスロンをどのように区内で人気を高め振興していくのか、またトライアスリートの集まる台場のまちづくりについても考えを伺う

テーマ２
増加する観光客や昼間人口を受け入れるためには、国際都市港区に相応しいまちづくり、きめ細かい安全安心施策がしっかりしていなくてはならない

◎日本の中心、東京の顔である港区のまちづくり・交通環境のあり方を鮮明にすべきだ

・「まちづくりマスタープラン」改定の方向性を含め、福祉など住民ニーズにも配慮しながら、国際都市港区のまちづくりをどう政策に反映していくのか。また、ちぃばすや自転車環境の向上だけではなく、リニア始発駅、ＪＲ新駅・地下鉄新駅などの開設が予定されている港区の交通環境の中期ビジョンについて伺う

◎繁華街の安全安心向上にさらに全力で取り組むべきだ

・港区の繁華街に不安を覚えている区民は 50%を超えている。港区の繁華街における安全安心を関係機関と連携し、どのように向上していくのか伺う

◎大型マンション防災対策、帰宅難民対策こそ港区が加速して独自に取り組むべき防災施策だ

・長年提言していた大型マンションの自治会設立緩和を受け、活発な防災活動ができる組織づくりをどのように促進・支援していくのか。また、８協議会目となる駅周辺滞留者対策推進協議会が六本木で発足するが、広域的な協議会間の連携が必要になってくると思うがどう進めるか

◎この５年間で港区は観光施策を拡充加速させるべきだ

・観光施策の幅は広い。2020 年の東京オリンピックパラリンピックまで薄く広く取り組むよりも、Wi-Fi 環境の整備などメリハリをつけて課題を設定し、この５年間だからこそできること、必要なことに集中的に取り組むべきだと思うがどうか

・区内のホテルニーズは限界に達しつつある。旅館業法特例について港区としてのあり方を早急に模索すべきだと考えるが、どう進めていくのか伺う

◎区民が楽しみにしている東京湾大華火祭を継続して欲しい

テーマ３
家族の誰かに福祉ニーズが発生すれば家族全体に必ず影響を与える。福祉サービスの包括的支援が必要だ

◎福祉総合相談体制の構築をするべきだ

「障害者とその親の高齢化の課題」「介護者のストレスから児童虐待に至る」などのケースを考えれば家族全体の支援をする視点が必要である。従来の見守り活動からもれる人々や制度からもれる人々を社会から孤立させないための支援が必要なのだ。加えてひとり暮らし高齢者の方にも対応できる福祉総合相談を進める発想と取り組みについて、窓口設置の余地も含め区長の見解を伺う

◎子供たちはまちの希望の星だ。児童虐待は絶対にあってはならない。

児童虐待死亡事例における０歳児の割合は４割以上だ。最も大切な取り組みである「妊娠期からの切れ目のない包括的支援」はどのように進めていくのか

・子ども家庭支援センターの虐待相談件数は平成 25 年度は 195 件だったが、平成 26 年度は 363 件に急増。対応は万全だったが、先の定例会での私の強い提言もあり組織強化したことで対応ができた。さらなる体制の拡充として、医療的、法務的など専門的支援が必要だと思うがどうか。

◎障害者の「親なき後」問題について抜本的取り組みをして欲しい

「親なき後」問題は、我が子を心配するがゆえに、「抱きかかえ」状態を生じさせ、それが逆に「親なき後」への不安を生むという負のスパイラルにも起因している。障害者児童の親亡き後問題について区として包括的にどのように取り組んでいくのか、徹底されているとはいえない成年後見制度の周知についても伺う

テーマ４
公立学校の魅力は地域の中にある。さらに連携を深めていくべきだ

◎地域と連携し、低下傾向にある中学校の就学率を上げる方策を伺う

◎遅滞している学校支援地域本部事業を推進し、地域との連携を深めて欲しい

・現在は生涯学習課に集中配置されているコーディネーターについて、各校に配置する必要があると思うが、今後の進め方を伺う

テーマ５
活気ある、開かれた議会にするために結束しよう

◎議会とは、議員とは

我々は厳しい選挙を乗り越え、多くの区民の負託を受けここにやってきた。日常の議会活動こそ、その負託に応えるものである。だからこそ日頃の活動を知ってもらう責務が我々にはある。それが開かれた議会という意味だ。開かれた議会と言うことになれば、我々自身が研鑽を怠ってはならない。
我々34人の言うことは、それぞれが多様で、それぞれが正しい。1 つ条例を作れば、その対象から外れる人が生じる。継続性・公平性を保つために対象を定めなくてはならないという意見も正しいし、全てを対象にしたほうがいいと言う意見も正しい。だから議論が必要なのだ。議員は研鑽を怠らず、議会は、主義主張、思想信条をこえて結束し、お互いを尊重し合える品格のある議論の場としていかなくてはならない。開かれた議会についてどのように進めていくのか、研鑽の場である委員会視察の意義についてもあらためて伺う

※多くの質疑で前向きな区の姿勢が示されました。詳細は港区議会ホームページに掲載されます。是非ご覧ください。
http://www.gikai.city.minato.tokyo.jp/main/index.html

区政報告についてのご意見、区政への要望等をお聞かせください

FAX 03-5549-4157
mail:info@ikeda55.com

港区議会自民党控室　港区芝公園1−5−25
P C 版 HP　http://www.ikeda55.com
港区自民党 HP　http://www.minato-jimin.com/

2015年11月5日発行

一般質疑においても、区に提言と要望

繁華街における「客引き防止条例」の早期制定を要望！

・六本木地区の安全安心に関する今後の取り組みについて問う

・客引きは六本木に限らず、区内各繁華街で目立つようになり、実効性のある施策を展開しなくてはならないと感じている。現在 23 区中 9 区が客引き行為等の防止に関する条例を制定しているが、港区で客引き防止条例を制定するべきだと思うがどうか

ちぃばすのバス停環境改善や山の手線ルート設置を要望！

・高齢者の方、子連れのお母さん、障害をお持ちの方がバス停で雨にぬれたり、夏の強い日差しにさらされている環境の改善を、広告付きバス停上屋で加速すべきと考えるがどうか

・各ルートの支所間の移動や区役所への行き来については、乗換を行わなければならない状況にあり、山手線のような環状ルートができないか

・区内最大の公共公益施設みなとパーク芝浦への乗り入れを、起終点の変更などを検討し早期実現するべきだがどうか

箱根ニコニコ学園の今後の再開方針について質疑

箱根山の噴火で閉鎖されている箱根ニコニコ学園の現状と再開について伺う

防災や地域開放にも寄与する公立学校の全体育館に空調設備を！

温暖化の影響で夏の暑さは尋常ではない。熱中症の危険もある。子供たちの使う公共施設で冷房がないのは本当にどうにかして欲しい。設置校との格差もある。防災上、地域開放の環境向上の観点からも未設置校については早急に設置を検討して欲しい。併せて、体育館天井の耐震化工事を行う体育館については同時に空調設備設置ができないか

7年前から訴えてきた区立図書館の無線LANがようやく本格導入！

7 年前から訴えてきた図書館の無線 LAN が本年ようやく本格導入される。どのように行っていくのか、また CD、DVD などの視聴覚資料の充実について、洋楽や日本のポップス等、名画等、誰からも愛される評価が定まった作品も多く取り入れて欲しいがどうか

高齢者介護虐待があっては何の長寿だと思う。絶対にあってはならない

現在、虐待予防のためにどのような取り組みをしているのか、また、虐待問題を始め様々な高齢者の相談窓口である高齢者相談センターの認知度が50パーセント以下と低い。今一度、介護保険制度の周知を力強く推進する必要があると思うがどう考えるか

地域全体で子供を見守る組織、青少年対策地区委員会の支援について

港区の公立学校は選択制だからこそ、青少年対策地区委員会の存在意義はますます重要だ。課題と、支援の拡充、教育委員会との連携について伺う

いけちゃん Topics

池田こうじFACE BOOKページより

戦時中、検事として沖縄赴任中の祖父は、あの史上最悪と言われる米軍沖縄上陸戦の中で、「生き伸びられたら自分のことは捨て、人のために生きよう」と決心した。銃弾がペンダントに当たるなど奇跡の連続で九死に一生を得た祖父は、戦争直後、東京を訪れ、戦災孤児がまちのいたるところに溢れているのを見かね、検事の職を辞し、可哀そうな独りぼっちの孤児たちを200人近く集め、混乱する東京を抜けて山梨県の山麓に「子供たちは天使だ」という思いで私財を投げ打ち児童養護施設を創立した。道なき場所に、牧場、農場を開き、人間愛を貫いて子供たちの未来を繋いだこの場所こそ、僕の福祉の血の原点。

今は僕が引き継ぐこの法人は、戦災孤児ではなく、都内で被虐待児など家庭に恵まれない多く子供たちを預かっているものの、その人間愛は変わらぬ思い。日本一古い社会福祉法人と言われてますが、古いも新しくもなく、ただただ子供たちの未来の希望を考え続けるのみ。
先日、久々にその地を訪れ、新たな気持ちで三期目も港区政進展に身を尽くすことを誓いました。
子供たちは天使、子供たちは希望